

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年1月9日

【四半期会計期間】 第16期第3四半期（自 平成26年9月1日 至 平成26年11月30日）

【会社名】 株式会社ファステップス

【英訳名】 Fasteps Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役 川嶋 誠

【本店の所在の場所】 東京都新宿区四谷四丁目32番4号

【電話番号】 03（5360）8998（代表）

【事務連絡者氏名】 取締役管理部長 村山 雅経

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区四谷四丁目32番4号

【電話番号】 03（5360）8998（代表）

【事務連絡者氏名】 取締役管理部長 村山 雅経

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第15期 第3四半期連結 累計期間	第16期 第3四半期連結 累計期間	第15期
会計期間	自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日	自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日	自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日
売上高 (千円)	4,324,149	5,769,421	5,615,404
経常利益又は経常損失() (千円)	29,521	36,469	141,387
四半期純利益又は四半期 (当期)純損失() (千円)	34,985	226,869	92,371
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	46,270	146,535	131,170
純資産額 (千円)	1,694,072	1,564,046	1,532,999
総資産額 (千円)	3,626,079	4,294,977	3,161,929
1株当たり四半期純利益 金額又は四半期(当期) 純損失金額() (円)	12.30	78.66	32.48
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	30.8	22.2	31.7

回次	第15期 第3四半期連結 会計期間	第16期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 平成25年9月1日 至 平成25年11月30日	自 平成26年9月1日 至 平成26年11月30日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額() (円)	1.99	70.39

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、第15期及び第16期第3四半期連結累計期間は1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、第15期第3四半期連結累計期間は希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

当社グループ会社である株式会社ライフプランニングが株式会社NSFの全株式を取得したことにより、当第1四半期連結会計期間より株式会社NSFを連結子会社にしております。

なお、当第3四半期連結累計期間において、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等) セグメント情報」「3. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスク及び前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、設備投資の増加傾向、雇用情勢の着実な改善など全体として緩やかな回復基調が続いたものの、物価上昇に伴う実質所得の低下や、急激な円安による原材料費の高騰を受けて、企業収益が不安定な状況となっていることを背景に伸び悩む状況が続いています。

このような状況のもと、当社グループは第三者割当増資による新株式の発行が完了し、新規事業への投資に向けて計画を進めております。この結果、当第3四半期連結累計期間につきましては、売上高5,769百万円（前年同期比33.4%増）、営業利益57百万円（前年同期比422.6%増）となりました。経常利益につきましては、貸倒引当金繰入額134百万円を計上したことにより、経常損失36百万円（前年同期は経常利益29百万円）となり、四半期純利益は法人税等の影響もあり、226百万円の四半期純損失（前年同期は四半期純利益34百万円）となりました。

セグメント別の売上高は、以下のとおりであります。

なお、第2四半期連結会計期間より、新たな報告セグメントとしてシェイプファンデ事業を記載しているため、当事業の前年同期比較を行っておりません。

（システムソリューション事業）

当事業におきましては、スマートフォンアプリケーションのタイトルを学習に限定せず、趣味・趣向に合わせたアプリタイトルを増やし、様々な年代へのアプローチを行い、新規ユーザー獲得をおこないました。しかしながら、既存の受託案件に関しては、受注数の減少により売上高も減少いたしました。その結果、売上高は265百万円（前年同期比15.6%減）、売上構成比は4.6%となりました。

セグメント利益に関しましては、回収不能のおそれがある債権を貸倒引当金繰入額として58百万円計上したことにより、セグメント損失(営業損失)37百万円となり、前年同四半期と比べ118百万円の減益となりました。

（メディアソリューション事業）

当事業におきましては、既存クライアントの受注数の増加や、新規クライアントの獲得により売上高は増加いたしました。その結果、売上高は4,918百万円（前年同期比46.6%増）、売上構成比は85.2%となりました。

セグメント利益(営業利益)は売上高の増加の影響により233百万円となり、前年同四半期と比べ256百万円の増益となりました。

（コストマネジメント事業）

当事業におきましては、消費税増税の影響も少なくなり、売上高も回復してきておりますが、前年のスポット売上の影響が大きく、売上高は減少しております。その結果、売上高は222百万円（前年同期比65.9%減）、売上構成比は3.8%となりました。

セグメント損失(営業損失)は26百万円となり、前年同四半期と比べ59百万円の減益となりました。

（シェイプファンデ事業）

当事業におきましては、シェイプファンデ事業を営む株式会社NSFを子会社化した際に、事業内容の見直しを行い改善を進めており、早期の黒字化に向けて売上の向上および経費の削減を進めております。その結果、売上高は332百万円、売上構成比は5.8%となりました。

セグメント損失(営業損失)は46百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて1,162百万円増加し、3,618百万円となりました。これは、主に受取手形及び売掛金が806百万円増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ29百万円減少し、676百万円となりました。これは、主に無形固定資産が120百万円増加したものの、貸倒引当金が133百万円増加したことなどによります。総資産は、前連結会計年度末に比べて1,133百万円増加し、4,294百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて822百万円増加し、2,016百万円となりました。これは、主に買掛金が579百万円増加したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ279百万円増加し、714百万円となりました。これは、主に長期借入金が158百万円増加したことなどによります。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて31百万円増加し、1,564百万円となりました。これは、資本金が87百万円増加したことなどによります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当社グループは、スマートフォンアプリの開発に際して、市場の需要を考慮したシステムの構築に取り組んでおります。当第3四半期連結累計期間の研究開発費合計は1百万円となっております。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	11,500,000
計	11,500,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年11月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年1月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,343,500	3,343,500	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数は100株であります。
計	3,343,500	3,343,500		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年11月7日 (注)	461,000	3,343,500	87,590	1,071,390	87,590	87,590

(注) 第三者割当 発行価格380円 資本組入額190円
割当先 株式会社セントラルプロモーション北海道

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年11月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 38,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,304,700	33,047	
単元未満株式	普通株式 400		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	3,343,500		
総株主の議決権		33,047	

(注) 1 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成26年8月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

2 平成26年11月7日を払込期日とする第三者割当増資により、発行済株式総数が461,000株増加し当第3四半期会計期間末日現在において、3,343,500株となっております。

【自己株式等】

平成26年11月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ファステップス	東京都新宿区四谷4-32-4	38,400		38,400	1.15
計		38,400		38,400	1.15

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年9月1日から平成26年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年3月1日から平成26年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、仁智監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,787,004	2,023,477
受取手形及び売掛金	348,413	1,154,839
営業未収入金	63,855	110,646
商品及び製品	1,042	64,006
仕掛品	11,729	11,609
繰延税金資産	8,472	24,973
その他	252,398	298,926
貸倒引当金	17,126	70,396
流動資産合計	2,455,789	3,618,083
固定資産		
有形固定資産	23,400	89,011
無形固定資産		
のれん	26,447	85,715
その他	53,448	114,927
無形固定資産合計	79,895	200,642
投資その他の資産		
投資有価証券	178,738	112,490
長期貸付金	313,732	324,800
繰延税金資産	10,402	7,218
その他	310,779	286,823
貸倒引当金	210,808	344,093
投資その他の資産合計	602,843	387,238
固定資産合計	706,140	676,893
資産合計	3,161,929	4,294,977
負債の部		
流動負債		
買掛金	211,179	791,088
短期借入金	² 815,000	² 703,494
1年内返済予定の長期借入金	49,896	132,960
未払法人税等	14,908	109,296
その他	102,654	279,729
流動負債合計	1,193,638	2,016,568
固定負債		
長期借入金	77,926	236,530
退職給付引当金	14,869	16,247
役員退職慰労引当金	309,063	320,264
その他	33,433	141,320
固定負債合計	435,291	714,362
負債合計	1,628,930	2,730,931

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	983,800	1,071,390
資本剰余金	774,915	663,414
利益剰余金	706,311	734,052
自己株式	58,994	58,994
株主資本合計	993,409	941,757
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,295	12,768
その他の包括利益累計額合計	9,295	12,768
新株予約権	1,838	4,203
少数株主持分	528,455	605,316
純資産合計	1,532,999	1,564,046
負債純資産合計	3,161,929	4,294,977

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)
売上高	4,324,149	5,769,421
売上原価	3,825,185	4,832,873
売上総利益	498,964	936,547
販売費及び一般管理費	487,880	878,625
営業利益	11,083	57,922
営業外収益		
受取利息	7,015	7,204
受取配当金	9,145	16,316
投資有価証券売却益	-	10,250
不動産賃貸料	12,610	11,905
貸倒引当金戻入額	-	5,831
その他	323	4,787
営業外収益合計	29,094	56,294
営業外費用		
支払利息	5,382	7,061
賃貸費用	4,762	5,718
貸倒引当金繰入額	-	134,000
その他	512	3,907
営業外費用合計	10,657	150,686
経常利益	29,521	36,469
特別利益		
投資有価証券売却益	6,328	-
特別利益合計	6,328	-
特別損失		
固定資産売却損	-	462
減損損失	-	23,566
特別損失合計	-	24,029
税金等調整前四半期純利益	35,849	60,498
法人税、住民税及び事業税	556	101,880
法人税等調整額	7,217	13,404
法人税等合計	7,774	88,475
少数株主損益調整前四半期純利益	28,075	148,974
少数株主利益又は少数株主損失()	6,910	77,894
四半期純利益又は四半期純損失()	34,985	226,869

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	28,075	148,974
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	18,195	2,439
その他の包括利益合計	18,195	2,439
四半期包括利益	46,270	146,535
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	37,375	223,395
少数株主に係る四半期包括利益	8,895	76,860

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)	
連結の範囲の重要な変更	当第3四半期連結累計期間において、当社グループ会社である株式会社ライフプランニングが平成26年3月26日付で株式会社NSFの全株式を取得したことに伴い、当社は株式会社NSFを連結の範囲に含めております。なお、株式会社NSFは平成26年5月31日をみなし取得日としております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

下記会社の金融機関からの借入金に対して次の通り保証を行なっております。

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
(株)スターブレン	40,000千円	40,000千円

2 当座借越契約等

当座借越契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
当座借越極度額	500,000千円	650,000千円
借入実行残高	450,000千円	550,000千円
差引額	50,000千円	100,000千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)
減価償却費	3,009千円	31,614千円
のれんの償却額	9,475千円	19,538千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年11月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動に関する事項

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年3月1日至平成26年11月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動に関する事項

当社は、平成26年11月7日付で、株式会社セントラルプロモーション北海道から第三者割当増資の払込を受けました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金が87,590千円、資本準備金が87,590千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が1,071,390千円、資本剰余金が663,414千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	システム ソリューション 事業	メディアソ リューション 事業	コストマネ ジメント 事業	シェイプ ファンデ 事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	314,140	3,355,217	651,638	-	4,320,995	3,153	4,324,149	-	4,324,149
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	314,140	3,355,217	651,638	-	4,320,995	3,153	4,324,149	-	4,324,149
セグメント利益 又は損失()	81,071	22,461	32,948	-	91,558	264	91,822	80,738	11,083

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲食事業を含んでおります。
2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額 80,738千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年3月1日至平成26年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	システム ソリューション 事業	メディアソ リューション 事業	コストマネ ジメント 事業	シェイプ ファンデ 事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	265,277	4,918,039	222,111	332,964	5,738,393	31,027	5,769,421	-	5,769,421
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	265,277	4,918,039	222,111	332,964	5,738,393	31,027	5,769,421	-	5,769,421
セグメント利益 又は損失()	37,725	233,976	26,675	46,502	123,073	1,756	121,316	63,394	57,922

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲食事業を含んでおります。
2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額 63,394千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「シェイプファンデ事業」セグメントにおきまして、店舗閉鎖の決定により23,566千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「シェイプファンデ事業」セグメントにおきまして、株式会社NSFが連結子会社となったことに伴いのれんの金額に重要な変動が生じております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は当第3四半期連結累計期間においては、67,415千円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、株式会社NSFが連結子会社となったことに伴い、「シェイプファンデ事業」を新設しております。当社は、従来「システムソリューション事業」、「メディアソリューション事業」、「コストマネジメント事業」の3つの報告セグメントとしておりましたが、新たに「シェイプファンデ事業」を追加しております。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

当社グループはデリバティブ取引を行っていないため、該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額 ()	12円30銭	78円66銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (千円)	34,985	226,869
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額 ()(千円)	34,985	226,869
普通株式の期中平均株式数(株)	2,844,100	2,884,332

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、前第3四半期連結累計期間は希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。また、当第3四半期連結累計期間は1株当たり四半期純損失金額であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年 1月 9日

株式会社ファステップス
取締役会 御中

仁 智 監 査 法 人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 山 口 高 志 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 來 嶋 真 也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ファステップスの平成26年3月1日から平成27年2月28日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年9月1日から平成26年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年3月1日から平成26年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ファステップス及び連結子会社の平成26年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。